

令和 4 年 度

歯 学 部

学校推薦型選抜入学試験・編入学試験

小 論 文 問 題

注 意 事 項

1. 配布物は、問題用紙（1枚）、小論文用紙（1枚）、下書用紙（1枚）です。
2. 小論文用紙の表紙の受験番号記入欄に受験番号を、氏名記入欄に氏名を記入してください。
3. 解答は所定の小論文用紙に記入してください。
4. 下書用紙と問題用紙は採点には全く関係ありませんので、余白を自由に使ってかまいません。
5. 小論文用紙は、横書きで、アルファベットと数字は、2文字を1マスに記入してください。
6. 試験時間は12時00分から13時00分までです。
7. 途中退場は許可しません。
8. 試験中に緊急事態が生じた場合は、挙手し監督者の指示に従ってください。
9. 試験終了後は小論文用紙のみ提出してください。この問題用紙と下書用紙は持ち帰ってください。

以下の記述を読んで、「超高齢社会をよりよく生きるために」という視点から、600字以内で論じなさい。

長谷川和夫先生は、「長谷川式簡易知能評価スケール」を開発・改訂し、「パーソンセンタードケア」の普及や、「痴呆」から「認知症」への名称変更に尽力し、認知症の診断・治療を牽引してきた医師である。認知症介護研究・研修東京センター名誉センター長であり、聖マリアンナ医科大学名誉教授である。2017年に自らが認知症であることを公表してからは、当事者の立場で認知症の人の想いを発信している。

認知症介護研究・研修東京センター主催で行われた91歳の誕生会において、以下の様なスピーチをしている。

ライフワークとして思っていることがあるんだ。
息のあるうちは人様のお役に立ちたい。
過去は重要だよ。だけど無くなる。
だから今！ 今を一生懸命に生きることが一番大切。
力の限り日々繰り返す。
天狗になってるわけじゃないよ。
僕にしかできない仕事なり！ 生きがいなり！
そう思って毎日を繰り返したい。

父と娘の認知症日記

認知症専門医の父・長谷川和夫が教えてくれたこと より

*長谷川和夫先生は、2021年11月13日92歳で逝去されました。

生前のご功績に敬意を表するとともに、心からご冥福をお祈りいたします。